

実践 鹿児島市立伊敷中学校

1 はじめに

本校は生徒数 683 人，各学年 6 クラス，特別支援学級 2 クラスの大規模校である。

「志・寛・錬」を校訓とし，生徒会の三大伝統である「門礼・黙想・朝作業」を継承しながら，生徒は日々学習をはじめとするさまざまな活動に励んでいる。

図書室では，多感な中学生の時期に読書を通して豊かな心を育て，個性の伸長と人格の健全な発達を目指し，図書館資料を活用して自発的に学習する態度や能力を養うことを目標に，生徒会図書班の生徒たちと試行錯誤しながら，図書室運営を行っている。

2 取組の概要

(1) 図書室の設営・展示

生徒たちの読書意欲を高めるために，室内や廊下の掲示コーナーを活用し季節や学校行事に関連する本を紹介している。

ア 時期に応じたテーマ

イ 図書クイズによる読書のきっかけづくり

ウ 学校の行事に関連した展示



(2) 年間を通した取組

ア 朝読書 毎週月曜日・金曜日 8:10～8:20

イ クラスで 1000 冊運動

平成 23 年度から各学級の合計貸出冊数の目標を 1000 冊とする取組を行っている。図書班員はクラスの貸出状況を毎月掲示している。また，学級掲示用の用紙を 999 冊までは白の用紙とし，1000 冊を超えると各学年に応じた色に変え，1000 冊達成したことが一目で分かるようにしている。この取組を行ってから貸出冊数が伸びている。

(3) 学期ごとの取組

ア 読書週間

貸出冊数の増加と生徒の読書意欲向上を目的に，時期を考慮して学期ごとに 1 週間の読書週間を設けている。この期間は 1 人 5 冊まで貸出をし，返却した際に図書班お手製の図書室おみくじ(内容は「大大吉」で最大 8 冊貸出可)を引くことができる。なによりのポイントは返却の際におみくじが引けるというところで，生徒はこまめに返却している。

イ 読み聞かせ

保護者を中心とした地域のボランティアの方々による読み聞かせで，各学期に

2 学年ずつ，年間で 2 回ずつ行えるようにしている。年度当初に学校でテーマを設定し，打ち合わせをしながら時期や学校行事，各学年の発達段階等に考慮した本を読んでもらっている。



ウ 図書班の活動

- (1) カウンターでの貸出・返却の対応
- (2) 設営物の作成(季節のもの，ポスター，しおり)
- (3) 書架整理
- (4) 学校専門部会の運営
- (5) 総合的な学習の時間を活用した読書活動推進に向けた取組

エ 伊敷中 50 選

生徒の読書の質の向上を図るために，読書指導担当教諭を中心に 50 冊の本を選定し，推薦図書としている。50 冊の内訳は全学年共通の本と学年ごとに読んでもらいたい本に分かれている。

今年度本校の生徒会図書班では「読書の質を高めよう」という目標を掲げ，その目標達成に向けて伊敷中 50 選を生徒手帳におさまるサイズにして配布し，常に生徒が携帯し利用できるようにした。また，ポイントカード形式にし 50 選の中から 10 冊読むごとにしおりをプレゼントすることにした。

その結果，昨年まであまり読まれていなかった本の貸出回数が増加した。



3 おわりに

本校が紹介してきた読書推進の取組として，特に成果があったと感じられるのは，クラスで 1000 冊運動，伊敷中 50 選の取組である。その成果として，前年度貸出冊数が 10 冊未満だった生徒 5 人が 10 冊以上貸出冊数が増加したり，伊敷中 50 選を通して，読書の質のステップアップにつながったりした。

今後の課題として，各教科の先生方との連携，そして授業活用があげられる。もっと積極的にレファレンスサービスをしていく必要がある。

また，多感な時期の中学生の成長の糧となる環境を与えることができるよう，そして図書室に行けば心を落ち着かせることもできるし，ワクワクすることもできると生徒が思ってくれる温かい場所にできるよう，今後も図書室の空間作りに取り組んでいきたい。